

---

# 神女と魔王と魔術師と聖竜騎士と

久月 斎里

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

神女と魔王と魔術師と聖竜騎士と

### 【Nコード】

N49320

### 【作者名】

久月 斎里

### 【あらすじ】

非日常に身を置くが全く気付いてない男勝りな超鈍感天然娘、神埼 柚流。その双子、非日常から頑張って片割れを守る苦勞人な少年、神埼 架流。だが何故か架流の苦勞は報われず、神（元師匠）に帰還不能なファンタジックな世界へトリップさせられてしまう。そこで出会うもう一組の双子。内気な性格だが芯は強い、なんでも魔王資質ありまくりな鈍感少年、リヒト・イクダクス。外見天使腹の中真黒な少年、シエル・イクダクス。四人が異世界を舞台に送る、神も悪魔も天使も吸血鬼も巻き込んだ、世界救済劇！ \*B Lっぱ

い表記がありますがBLではないです。多分。逆ハ 気味ですが一人に絞りますので総愛されみたいな感じですので苦手な人でも大丈夫かと。

## 零章？ 魔術師の何回目かのプロローグ（前書き）

更新は週末まとめてやります。てか平日パソコンに触れないので放置になります。すいません！

で、後何話かこんな感じですのでご了承をば…

## 零章？ 魔術師の何度目かのプロローグ

しとしとと鬱陶しい雨が降る夜。自分的にはシュギゼラクス之夜。全く、これじゃあ台無しじゃないか。

天気予報くらい見れば良かったと、黒衣の人間は自嘲の笑みを浮かべた。珍しくこちらに来てみれば、唯一の月もすっかり黒い雲に覆われて、その光を拝むこともできない。

女性にしては高く、男としては平均。そんな背丈の黒坊主は暗い夜闇を周りに従え、眼下に広がる目に痛いネオンの光を背景に置き、神秘的な雰囲気でのびのびの空間を支配していた。今、この雨に曝されている、通称？幽霊ビル？の屋上に人気は皆無だった。もしここに人がいれば、その空気に触れただけで固まってしまっただろうが。

「折角の引退式に、？あいつ？も無粋な事をする」

なあ、少年。

「知るかつ、さつさと？解除コード？とやらを渡せつ！」

息を切らして呼吸を乱した、まだ小学2、3年、まだランドセルの方が大きいのではと思われる少年。その少年に黒坊主はにやにやと実に楽しげに声を掛ける。

そう、この場には？普通の人間？なら？思考もできずに硬直するか近寄れない？という情報を書き込んであるのだ。

つまり、このまだ幼い、少女と言った方が適切な容姿を持つ少年は？人間ではない？か？普通ではない？のだ。

「いや、実に早かったじゃないか。後365日は掛かると思っただけ。洗いざらい本屋とTU AYAに強襲を掛けてきたのに」

「やつぱりあんたかつ、変態本ばっか買占めやがって！ この変態

！俺を舐めるなよつ、あんだけ痕跡を残して、遊んでんだろつ」  
突如黒坊主の背後に現れた如何わしい本の山とDVDに軽蔑の視線を向けつつ、全身ぐっしりと雨に濡れた少年は「やれやれ」のポーズをする馬鹿に小石を投げ付ける。これまた桁外れの威力とスピードなのだが、黒坊主は器用に本で弾く。これまた人外のスピードである。

黒坊主は思う。

遊ぶ？ とんでもない。本当に？この世界から消失？するつもりでこの場にいるのである。至って入念に、しかも 深淵の魔導師と名高いこの自分が、この幼い少年に対して本気になったのである。しかもこの少年は本気の自分を遊んでいるという。多分気づいていないのだ。

この少年は、己の非凡さを認識してはいない。そしてまた、その片割れの危うさも。

「いいから早く寄せせつ、あいつが…また暴走する！」  
？暴走？という単語に、どれだけの意味が含まれているのか。この少年は知らないのだろう。

だから無邪気に接することができるのだ。あの、？最強？の名を欲しいままにした狂戦士を、意図的には無いにしろ、一撃で葬った片割れに。そう、口元に笑みさえ浮かべて罪を犯した者に。

「力が欲しいか、少年」

その片割れの、背中を見失わないだけの力が。

あの？化け物？に、呑み込まれないだけの力が。

そしてまた、その片割れの少年は言うのだろう。悩む余地すら無く、彼からすれば片割れを守ることが最優先事項なのだから。

「くれるなら貰ってやるさ。でも、それよりコードを渡せつ」

ほら、最強の力より片割れを取る。だからこそこの少年は受け継がねばならない。それが過酷な使命を継ぐことになろうとも。

「欲しいのならばくれてやろう。？最強のケータイ魔導師？の称号と共に」

「はあっ！？ 何いって」

精神深層世界よりデバイス端末との通信機能を放棄、破棄。継承者の精神情報とデバイス番号の融合。完全な形での継承を認定、許可。

？実行？の二文字を黒い携帯電話に打ち込むと同時に、黒い雨雲が、世界が灰色に染まっていく。金色のオーロラが灰色の空に掛かり、それがどんどん広がっていくのが分かる。あまりに巨大。あまりに強い。黒坊主は心の中でほくそ笑む。ああ、これだから傍観者はやめられないのだ。

心底恐ろしい存在も、目の前の不可思議な存在も。全部特等の観客席から見ることができるのだ。こんなに楽しいことはないだろう？ 少年。

「暴走……今回、でかくないか……」

「さあな。ほれ、持ってけ少年。お前の力だ」

雨粒までもが律儀に動きを止める中、黒い携帯は重力に従い、少年の手の中に収まる。ピシッ、と空に切れ目ができる。

少年はその様子を愕然と見つめた後、溜息をつくと画面を開いた。「理由はわかんね けど、どうせあんたの仕業だろ？ 手伝えよな」「無理だ」

「……等々ボケたか。よし、老人を労わってさっさと地獄なり冥府なり送ってやるからそこを動くなよこのボケ老人」

こめかみを押さえる小学生に、黒坊主は冗談のように気軽に。しかしさらつと大変なことを口にする。

「ああ、魔術師引退してちよつとばかし？ 神様？ つてのに転職しようと思つてな。てことでこちらの管理はお前の仕事になるのでそこんとこよろ」

「……とうとう頭沸いたかこのボケ」

「？ 魔術師？ のお前が何を言うか。生まれてこのかた非日常の中心

にいたくせに。神とも何人が知り合いいるんじゃないか？」

「中心はあいつだっ、つーかあんな狂人共なんか知らん！」

知り合っているらしい。本当に非常識な交友関係を築いている少年である。これで悪魔やらドラゴンやらとも友達なのだから世話ない。くくっ、と可笑しそうににやける黒坊主に少年はまた小石を投げ付ける。何の動作もしない黒坊主を見て、少年は心中ガッツポーズを作る。

「残念賞」。だが的当てとしては100点だな。脳天。一般人なら死んどるぞ」

霞のように薄らいだ黒坊主の影を見て、少年はやっと気づく。この馬鹿魔導師は、自らの？存在消去？をすでに？入力済み？なのだ。「んなつ、アホかこの厨二病患者っ！死ぬ気かよ！」

画面の数式が青い光となって少年に纏わりつくが、やがて霧散して消える。

「無駄だ馬鹿弟子。神数人がかりで？対お前用？のロックを掛けている。後10秒じゃお前とて解けまい。」

足元から空気に溶けていく黒坊主を、少年は茫然と見送る。こいつには人間らしい所もあるのだから。双子揃って厄介なもんだ。「さらばだ弟子よ。赴任先から面白い奴らは任せてやるから頑張れよ」

「いるかあああつ、この馬鹿師！」

最後に光の輪を残して消えた黒坊主と、少年は「とつととクタバレ！！」という罵声で別れを交わす。最後までにやけ顔を崩さなかった師匠との思い出を振り返る暇はない。というかなんで二、三発殴らなかつた後悔しそうなのでやめておく。

師に贈られた黒一色の携帯電話と白いイヤホンを繋ぎ、一度目を閉じる。

「さて、不本意だけど初仕事と行きますか…」



次に目を開いた時少年の目に映ったのは、いつもより鮮明に見える、世界の血脈たちがドクドクと脈うっていた。

**零章？ 魔術師の何度目かのプロローグ（後書き）**

……駄文で失礼します。ごめんなさい。

文才欲しいなー。落ち着いたら改善します。

……たぶん。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4932o/>

---

神女と魔王と魔術師と聖竜騎士と

2010年10月24日17時25分発行